

小平市みどりの基本計画 地域懇談会 会議録

令和元年 12 月

目 次

I	実施概要	1
	1. 実施の目的	1
	2. 実施概要	1
II	質疑、意見交換の記録	2
	1. 美園地域センター	2
	2. 学園西町地域センター	3
	3. 小川公民館	5
	4. 中央公民館	7
	5. 小川西町地域センター	11
	6. 中島地域センター	13
	7. 東部市民センター	15
II	意見のまとめ	17
	1. みどりの確保について	17
	2. みどりの維持管理について	18
	3. 農地保全について	19
	4. 地域活動について	19
	5. みどりの地域資源について	20
	6. みどりのまちづくりの方向性について	20

I 実施概要

1. 実施の目的

小平市みどりの基本計画の改定にあたり、小平市のみどりに関する市民意識・意向を把握し、それを計画に反映するための基礎資料とするため。

2. 実施概要

(1) 日時、開催会場、参加者数

日時		会場	参加者数
令和元年 12月7日(土)	10:00～11:30	美園地域センター 第1・2集会室	0人
	15:00～16:30	学園西町地域センター 第1集会室	1人
令和元年 12月14日(土)	10:00～11:30	小川公民館 ホール	4人
	15:00～16:30	中央公民館 学習室4	7人
令和元年 12月21日(土)	10:00～11:30	小川西町地域センター 第1・2集会室	2人
	15:00～16:30	中島地域センター 第1・2集会室	1人
令和元年 12月22日(日)	10:00～11:30	東部市民センター 集会室(洋室)	1人

(2) プログラム

- ①開会
- ②開会挨拶
- ③小平市のみどりの現況や計画の方向性などの説明
- ④質疑、意見交換
- ⑤閉会

Ⅱ 質疑、意見交換の記録

【質疑、意見交換の記録】で「○」は参加者、「・」は市の発言である。

1. 美園地域センター

日 時：令和元年 12 月 7 日（土）10:00～11:30

会 場：美園地域センター 第1・2集会室

参加者：0名

【質疑、意見交換の記録】

（なし）

2. 学園西町地域センター

日 時：令和元年 12 月 7 日（土）15:00～16:30

会 場：学園西町地域センター 第 1 集会室

参加者：1 名

【質疑、意見交換の記録】

- 回田町在住で、市報を見て来た。近隣で宅地開発が進んできており、生産緑地が減ってきていることを目の当たりにして危機感をもって来た。3000 m²以上の開発につき、6%の面積をオープンスペースとして提供する、という提供公園の制度が十分に機能しているのかということに問題意識がある。開発行為の中に公園がきちんと位置付けられていない。都市開発の中心となる課として、都市計画課だけではなくて、水と緑と公園課もより深く関わってほしい。
- ・生産緑地は三代相続したら土地がなくなってしまうと言われている。樹林地も畑も私有財産なので、行政の対応に限界がある。産業振興課で地産地消を促進するなど、農業経営が成り立つようなサポートを通じて、放っておくと三代でなくなってしまうスピードを緩めるのが今のところ対応の限界と感じている。
- 3000 m²以上だと 6%の提供の義務、3000 m²未満だと 0%としているところが課題なのではないか。例えば国分寺のように、開発面積に応じて緑地帯を設ける義務を負うような制度が必要なのではないか。近隣で数件開発が進んでおり、それに伴って新しい公園ができる住民は楽しみにしていたが、どの開発地も面積が 3000 m²を少し下回った 2900 数十 m²で申請されていたので、結果、公園が一つもできなかった。この状況を放置すると年々みどりは減っていくだろうという危機感がある。
- ・3000 m²の開発で 6%だと 180 m²となり、3000-4000 万円分ぐらいの差がついてしまうという事情もあるかもしれないが、確かに放置するとみどりは減るだろう。小平市としても宅地開発によって共有のみどりが減っていくなら、各ご家庭にみどりを設けてほしいと考えており、例えば生垣つくることへの支援制度を設けている。しかし、近年、戸建て宅地の地面がコンクリートで覆われている物件が増えて来ている。購入層にもその方が人気があるので、デベロッパーもそのような物件を提供する傾向にあり、戸建て住宅から緑地が消えつつあることに危機感を感じている。
- 共働きで夜遅くまで働いており、土日はゆっくりしたいという人が増えており、町内会への参加を促すことが難しい。昔は「町内会≒子ども会」だったが、今は違ってきていて、回覧板も回り難い状況である。みどりを守るということはそれだけにとどまらず、社会構造や労働条件を変えていかないと解決できないようだ。
- 回田町は玉川上水に近いので、散策できて日々ありがたいと感じる。これがなくなると大変だという気がする。水が流れて生物が生き生きしてきたと上水近くの住民は評価し

ている。

- ・玉川上水は昔からあるみどりである。昭和 30 年代に五日市街道にしようという意見もあったが、平成 7 年に連続したみどりとして残すことが決定された。これは英断であったと思う。流れている水は再生水であり、川から引いた水と異なって水温が若干高いが無いは随分良い。植物も生き生きしている。
- 如何ともしがたいが、宅地開発が進んでいくのだろう。実は近くの開発によって、住民から愛されていたサクラが切られたので、意見を聞きにいったら開発資料をつきつけられたという経験がある。
- ・農家のみなさんも、先祖伝来の土地を売るのは忍びないと思う方が多いだろう。経済的に余裕があって売りたいという人はいないので、生産緑地はどうしても売られやすい傾向にある。6%を提供してしまうとペイしない、という声も聞く。しかし、せめて既存樹木を伐採したらどこかに植樹はしてほしいと思う。コンクリートの三和土が打たれている戸建て物件も、常緑樹で成長の遅い樹木を植えるように誘導できないかとは考えるところである。
- できたら、基金を積んで農家の人が土地を売らないで済み、将来に渡ってみどりを守れるようにできる仕組みが望まれる。

3. 小川公民館

日 時：令和元年 12 月 14 日（土）10:00～11:30

会 場：小川公民館 ホール

参加者：4 名

【質疑、意見交換の記録】

- 上水新町三丁目に住んでいる。小平に 50 年以上住んでいる。今シルバー人材センターで駅前広場の草刈りをしている。三菱UFJ銀行の跡地が公園になると聞いているが、その際サクラの老木の行く末が気になる。玉川上水の南側に戸建ての平屋に住んでおり、庭の落ち葉で堆肥を作っている。周囲に建売住宅が増えて来ているのが気になっている。
- 鷹の台駅前に勤務していた。学園西町に住んでいる。小平市のみどりで良いところは、グリーンロードを中心として、玉川上水、鷹の台の中央公園などがあることだ。鷹の台は上水新町、上水本町、小川町のちょうど中間ぐらいにあり、いずれの地域センターからも少し遠い。創価学園のグラウンドの跡地は、国分寺市のいずみホールまではいかなくとも、地域センター規模の、コミュニティタクシーの発着場となるような、コミュニティの核となる施設ができることを希望している。
- 上水新町二丁目に住んでいる。NPO に属して活動している。生きものを支えるだけでなく、みどりの活用、観察会といった活動を通じて人の輪が繋がっているという実感がある。ほかの方がおっしゃるように、各地域センターは少し遠いと感じる。公民館では飲食ができないので、コミュニティの核となる施設ができれば有意義だと思う。
 - ・小平市のみどりの課題は、街路樹が乏しいということが一つあげられると思う。歩道も狭い。街路樹が無いと、夏の散歩が厳しい。小平駅前の青梅街道沿いにテイカカズラが植えられていたが、いつのまにかなくなっていた。子どもが小さい時に「街路樹探検隊」という活動を行っていた。一見、どうしようもないという場所でも子ども目線で調査すると意外と発見があるものだと感じる。
 - ・生きものの生育を支えるには連続したみどりが必要である。前述の街路樹の課題と共に、上水やグリーンロード沿いのみどりもつなげられればよいと思う。
 - ・活動を通じて感じることだが、上宿・小川用水の用水路がとても良い状況である。溜まりが多く、ヤゴが住みやすい環境が多くある。野火止用水と玉川上水は鯉やプレコが生息している。
- 鷹の台の玉川上水の近くに住んでいる。近隣に作物の作られておらず、雑草さえ生えていない生産緑地がある。風が吹くと砂埃が玄関の隙間から入ってくるなど、とても困った状況になっている。草一本生えていないことから、とても強い除草剤を使っているのではないかと思う。青梅街道沿いから鷹の街道に短冊形に残っている農地で、昔からの区割りが残っているということで有名な土地である。現在は持ち主が維持管理できない

状態だと思われる。

- ・生産緑地であるがゆえに税制上優遇されているので、その状況であれば、農業委員会が注意する必要がある。生産できないとペナルティがあるはずだ。
- 土に触れたいと思っている人も多くいるし、人手が足りなくてボランティアで回している農家さんもいる。空いている生産緑地を貸し、農園や市民農園のかたちで利用できれば、活用したいという人は多いと思う。大学の先生の実験の場にもなっている農地などもあり、そのような残し方もあると思う。
- 小平に来てから 40 年近く経つ。農地の減り方が著しい。農地として土地が残っているというだけで価値がある。宅地になってしまうともう元には戻らない。
- 農地が宅地化によって減少しているということを考えれば、空き家を活用することによって農地の開発圧力を下げることができれば、農地の減少を食い止める一助となるのではないかと思う。若い人が空き家を利用して楽しい暮らしをしている事例があれば、空き家を利用しようとする人も増えるのではないか。実際自分も中古住宅を購入して壁に漆喰を塗ったり、自身および友人たちと手を加え今に至る。
- ・農地は個人が持ち主なのでなかなか対策が難しい。農業はどうしても個人事業主で経営が不安定になることが多い。農業法人にして債券も発行してもらい運営できるようにすればいいかもしれないが、そうすると相続にも労力がかかる。
- 風致地区が機能していればもう少し状況が良くなるのではないかと考えている。今は風致地区と線引きされていてもなし崩し的で、どこから風致地区なのかわからない状況になっている。
- 中央公園の雑木林はアクセスも良く市民のイベントも多い上、希少種であるアオバズクも来るなど自然も豊かで、とても価値が高い。それを思えば、新府中街道はもっと深く掘るべきであったと思う。10 年前の軽率な判断が今に続いているのではないかと思う。
- 以前は農地も都市には必要ないという風潮もあったことを考えれば、農地や景観に関する考え方も法律もだいぶ変わってきている。条例の範囲で変えられるものは変えていければ良いと思う。
- ・みどりを守るには、みどりを“買う”必要がある。それは一基礎自治体のレベルでは難しいので、どうしても質を上げるという方向になってしまう。
- 観察会や調査など助成金を出してくれると嬉しい。

4. 中央公民館

日 時：令和元年 12 月 14 日（土）15:00～16:30

会 場：中央公民館 学習室 4

参加者：7 名

【質疑、意見交換の記録】

- シルバー人材センターであじさい公園の清掃に関わっている。公共用の掲示板が少ないと感じている。管理が少ない樹林地など、イチョウの葉・マツの葉など絨毯敷きのようになっており、清掃の手が足りないことは常に感じているので、効率的な清掃用具などを考えていきたい。あじさい公園はホタルのための池があるが整備されていない。ホタルの餌となるカワニナを育てていくのは手のかかることなので、成果はまだであっても資料で「ここでホタルを育てている」という旨を伝えてもよいかと思う。こういった理由でもう少し掲示板があればと感じている
- 青梅街道駅の近くに住んでいる。小平市のみどりについての説明資料の 7 ページ目に公園の整備状況が記載されているが、小平市としては公園を今後増やす予定はあるのか。青梅街道駅の東側の空き地は、今であれば買収できるのか聞きたい。駅前に公園ができると良いと思う。もう一つ質問があるが、青梅街道のケヤキ林はどんどん伐採が進んでいるが、市として残っているものを保存可能か。
 - ・小平市としては、都市計画決定した公園は整備していこうと考えている。青梅街道駅の近くは都市計画決定されている訳ではないので公園として整備する予定はない。ケヤキ林については、屋敷林で個人の持ち物で市が介入できない。保存樹木である場合は、できることとしては 5 年に 1 回剪定費の一部を補助するぐらいである。
- 落ち葉の管理が大変だからといって強剪定されている状況は樹木にとって良くない。落ち葉はゴミではなく循環させていきたいと考えている。
- 管理の行き届いていない提供公園を見て、コミュニティガーデンをやってみたいと思っており、気持ちを一歩進める時にどうすればいいのいか、背中を押してほしい人も多いと思う。そんな時に苗木の配布などをしてもらえる制度はあるか。空き家と空き地とみどりの創造をリンクさせることも重要である。高齢者施設の近くにみどりのスペースがあると使いやすいのではないか。
 - ・落ち葉を循環させていくには、今放射能の検査が義務付けられていて少々難しくなっている。やりたい気持ちがある方は、水と緑と公園課に連絡していただければ、制度の紹介など可能である。
- 御幸町在住。狭山・境緑道、玉川上水緑道、小平駅・花小金井駅の大花壇は小平市のみどりとして自慢できる。小平霊園のケヤキや、神明神社のケヤキ、オープンガーデンなどの取り組みも素晴らしい。

- 以前に緑化推進委員会で、あかしあ通りや一橋学園前の商店街でハンギングバスケットを活用しようというアイデアがあったが、今現在の検討状況はどうなっているのか聞いてみたい。とても良いアイデアなのでクラウドファンディングなどで資金を集めて実現できると良いと思う。小平市は都心に近いけれども緑道や農地が近くとても良い環境だと感じている。ありきたりな"水とみどりの〇〇〇"ではなくて、もっと素敵なキャッチフレーズを考えて、小平市のみどりをPRできるとよいと感じる。
- ・ハンギングバスケットについては、予算がないと動かないということもあるが、現在、電力の供給などの課題もあるので現在可能性を探っている。
- 緑と花いっぱい運動の会ので活動している。小平グリーンロード沿い、玉川上水に面したところに住んでいてオープンガーデンにも参加している。小平グリーンロードは歩きたくなる道50選に指定されていることもあり、5月には多くの人が玉川上水散策も兼ねて訪れる。以前、NHKの深夜便に出演したら50人ぐらいの団体さんが訪問したこともある。韓国語・中国語・英語のパンフレットも作成した。東大和駅前などは西武鉄道のボランティアが多いと聞くが、小平駅前の大花壇は全て市民のボランティアで作り上げている。緑と花いっぱい運動の会は年齢層が高い。募集はしているものの若い人がなかなか入ってこない。自宅のケヤキは保存樹木だったが落ち葉の苦情が来て2本切ってしまった。
- ・若い人が入ってこないというのは、みどり関連の活動以外の団体でも苦慮している。組織の新陳代謝もあり、今現在の会員が抜けないとなかなか新しい人は入ってこないという状況ではないか。
- 学園東町在住。オープンガーデンも緑道も素晴らしい。みどり豊かな小平に住んでいる人は評価していると思う。一方、宅地開発が進んでみどりが減ってきていることも痛感している。大規模開発が進んでみどりは減っていく。しかも今後人口は減っていくので、みどりを減らしてまで作っている宅地は、将来の空き家候補である。道路計画も進んでいることが市報にも記載されていた。道路と宅地が広がって、みどりを増やすことは可能なのだろうか。
- ・宅地の開発については民間の事業なので、止めることは難しいが制度としては3000㎡の開発につき6%のオープンスペースの提供を義務付けている。道路であれば街路樹がみどりの部分を担う。道路と宅地という開発圧力に対して、みどりはどうしても「できるだけ減らさない」といったかたちになってしまう。
 - ・保存樹林に関しては、道路や住宅から5m以内にあるものを伐採しているので、実情としてそんなに減っている訳ではない。減っているのは生産緑地である。
- あじさい公園のホタルの育成であるが、カワニナは既に居るようだ。ただ、夜の街路灯の影響などでよく見えなかったり、水路にかかっている枝の間に入っていたり光っているのがよく見えないようだ。今後どのような作業をするのか、教えていただければ手を動かすことはボランティアでできる。

- また地域の防災活動にも参加しているが、特別警戒防止中のポスターなど、貼るところが無いので、樹木、しかも都の樹木に直接貼ったりしている。見た目にも悪いので、立派なものでなくていいから掲示板がほしい。
- また、以前あじさい公園の水路で多く魚が死んだことがあり、その際に水質検査実施中の掲示をつけたが、もう収束したので掲示を撤去してほしい。
- さらに、落ち葉により、池の掃除に苦慮しているので、網をかけるなどの対応をしてほしいと考える。
 - ・魚死亡の看板については撤去する。
 - ・生産緑地の宅地化については、売却する方にとっては相続対策のために売らざるを得ないという実情がある。市民農園などもできれば素晴らしい。しかし 3000-4000 m²となると5億程度を用意する必要があり、とても自治体の財力としては手が届かない。生産緑地が売却される際には行政に連絡がくるので情報は入っている。しかし買えない、という判断になってしまう。
- 基金などは活用できないのか。
 - ・みどりの基金に関しても、どうしても今あるものを良くするという使い方になってしまう。
- 樹木の保全活動の状況を聞かせてほしい。
 - ・落ち葉掻きと下草刈りがメインである。細い枝で手の届く範囲で細いものであればチェーンソーを利用して剪定している。残念ながら小平の雑木林は放置されて30年以上経っているものが多く、萌芽更新を試みても萌芽したものが少なかった。よって、現在は後継樹を育てる方に向かっている。小平の雑木林はほぼ薪炭林で、以前は手鋸で切れるサイズであった。
 - ・昔はケヤキ1本切れれば10数万の利益があったらしいが、現在は、巨木を伐採すると逆に20-30万かかる。
- 現在の状況が森林を管理する上で適していると思われると誤解を生むので、雑木林のかつての姿と現状を計画にはしっかり記載してほしい。田園居住地域の指定はどのような状況か。
 - ・都市計画変更は通常であれば難しい。農家は自分の土地を全て農地として活用できていれば相続問題は起きない。しかし、経営状況が苦しいので、一部を売却するかたちになってしまっている。また、生産地と消費地が近いものの、現状の農地の規模では少し狭く、利益を出しにくいということも聞く。
- グリーンロードにベンチをもう少し設置してほしい。特に緑道など散策中に少し休憩したいので、一定の距離ごとに設置すれば散策の目安にもなるので、要所要所に置いてくれると助かる。立派なものでなくても、切り株や大きな石でもいい。簡易なものを自分たちで設置して2~3年で更新していてもよいのではないか。
- 剪定作業はリハビリに適していると聞く。低木・草花などは専門家を招聘してマニユア

ルを作成、レクチャーを開催すれば後々自分たちでできると思う。市民が関わることができる仕組みづくり、市民にやってもらう仕組みづくりを構築してもらいたい。国土交通省もグリーンインフラという概念を打ち出している。みどりだけで完結するのではなく、ヒートアイランド対策や医療費の削減につながるロジックを組み立てられるとよいのでは。

- これから計画を策定するにあたって、我々も減っていくのを止めるだけではなく、増やしていきたいとも考えている。「緑被率+緑被されていない公園面積+水面=みどり率」と定義しており、これの増加を目指している。また、1ha以上の公園2つの整備も今後予定している。目に見えるみどりとして、ハンギングバスケットは最も有効だと思うので、これも進めていきたい。5月のグリーンフェスティバルでは苗木を1,000-1,200本配布する予定なので、各自の庭にもみどりを増やしてほしいと考えている。

5. 小川西町地域センター

日 時：令和元年 12 月 21 日（土）10:00～11:30

会 場：小川西町地域センター 第1・2集会室

参加者：2人

【質疑、意見交換の記録】

- 今日一緒に参加している中学生の娘が、学校の総合の時間で環境について研究・発表する取り組みをしており、今日はいろんな人の意見を聞けたらと思って参加した。具体的には環境にやさしいまちをテーマとした研究である。
- 実家が町田市で、自分が育ったころは比較的まちにみどりが多かった。成長していくにつれ、住まいがだんだん都心部のほう、最後は新宿まで移っていったが、自然との関わりはほぼなくなっていった。結婚し子どもができるまでは新宿にいたが、家が手狭になり子育て環境としてどうかとも思ったので、転居を考えた。西武新宿線沿線で探していたら小平市が良さそうと思い現在住んでいる。新宿に住んでいた時には切り捨てていたものがここでは取り戻せる。住まいとしてはいいところだと思う。
- 現在の家はマンションだが、住まいとしては商業施設や駅が近いという利点があるほか公園も身近にあり、今後もみどりとの関わりは持っていきたいと考えている。
- 市には、今のみどりに関して大きく方向転換することなく今のみどりを維持してほしい。
- 50年前の町田市は、宅地化が進み始めたころであり、開発が進み、どこにいても団地がありその中にスーパーや学校、公園がつくられたが、山は残っており自然も残されていた。今住んでいるところのみどりは作られたものだけである。
 - ・町田は、まとまったみどりとそうでないところが明確だが、小平はその辺があいまいであることが特徴である。新宿のみどりは街路樹や公園、御苑などが代表的なものである。
 - ・小平は場所によってはみどりが多い。東部は公園程度だが、西部はそれ以外のみどりも多い。
- マンションのベランダでみどりを育てているが、敷地内には立体駐車場と建物があるだけでみどりのスペースはない。
- グリーンロードは通勤に使っているし身近な生活に密着したみどりである。サクラが植えられていて花が咲く頃は見応えがある。
 - ・最近、サクラは弱りつつある。樹木としての寿命が近く、害虫の被害も受けている。
 - ・グリーンロードについては、野火止用水以外は東京都が管理している。東京都に頑張ってもらいたいと考えている。
 - ・ソメイヨシノは連作ができないので、今の樹が枯れたら別のサクラを植えようとしている。サクラを伐採して別の樹にすることは周辺住民からは抵抗があるようだ。
 - ・小平の木は人が植えたもので、かつては薪として活用していた。そのための樹林地が作

られたが、経済的な側面で植えられたものとも言える。周りに人が住むようになると枯れ葉が迷惑になり、悩ましくなった。

- ・焼却施設は周辺市と共同で運営している。焼却施設が老朽化していることから施設は再整備する予定である。本年度4月より家庭ごみ有料化を開始したが、それによりごみの減量効果が期待される。
- 小平はみどりが多いと思うので、みどりに関しては興味ある。みどりはまちの魅力の一つである。グリーンロードは大きな魅力であり癒される。今後も保全をしていただきたい。
- ・川は氾濫するが、小平の用水路は安全。津波の被害もないし浸水もないので安全だが、富士山の噴火と地震の恐れはある。
- 水害の恐れがないので台風のときに避難しても意味がなく、外に出ず家にいたほうが安全である。新宿にいたころは神田川の氾濫が怖かった。
- ・小平市には農地が多いが、農薬を撒く際、周辺の住民に気を遣って量や回数を少なくしているのでもわりと低農薬である。直売所で売っているものは安くて低農薬なので人気がある。

6. 中島地域センター

日 時：令和元年 12 月 21 日（土）15:00～16:30

会 場：中島地域センター 第1・2 集会室

参加者：1 人

【質疑、意見交換の記録】

- 限られた予算をどのように使うかも大切だが、新堀用水などの用水路は全て残して欲しい。
- 新堀用水は雰囲気がいいので今のものを残して欲しい。よくあるコンクリート張りにするのは避けるべきである。
- 用水路の水がなくなり、土が見えている箇所がある。
 - ・清掃は年に 1 回やっているが、昔とは違い用水路の水を飲料水としては使っていないので、用水路が大事にされなくなりつつある。
 - ・小平の用水路は、コンクリートの護岸はほぼないが鋼板を立てているものはある。用水路の近くに車が通る場合、その振動等に対応するためのものである。
 - ・容易に剥がすことが困難であるため、用水路をコンクリートで固めるようなことはしない。
- 道路計画があるが、新堀用水はどうなるのか。
 - ・車が通る部分は、ボックスカルバートをいれる計画となっている。
- 見えるところだけでも、石垣にするなど景観への配慮がほしい。
- 津田塾大の近くには石垣風になっているところがあるが、それはなぜか。
 - ・車が通るので強度を上げるためにこのような形にしたと思われる。
- 生物多様性の観点からも、今後の整備にあたってはそのような配慮がほしい。
- 鷹の台の創価学会の跡地はグラウンドになると聞いているが、たくさんの木を植えてほしい。
 - ・四季が感じられるようにしたい。路面が周りより高いので、ある程度削った上で植栽することになる。
- 大きな木を植えるとまたお金がかかるのではないか。
 - ・周りにも木は多いし、苗木から育てていく方向で考えている。
- 中央公園のサクラもかつては小さかったか。
 - ・最初は小さかったが、徐々にあのような形になってきた。20 年もあれば大きくなる。
- 公園にカフェなどもできるようになったというが、スタバのようなチェーン店ではなく地域の人が運営するものになってほしい。
- 公園内に屋内の休憩スペースがほしい。中央公園の体育館はたむろする人が多いので閉鎖されたと聞いたことがある。不登校の子も受け入れられるような福祉的な機能を持つ

施設が良いのではないか。

- ・閉鎖したのは、たむろすることが理由ではないと思う。
- 新しくできる公園には地域の人に関わって欲しい。
- 農地が宅地化するのには相続の問題が大きいのか。
 - ・税制が大きい理由と聞いている。生産緑地を市で買い取る制度もあるが、財政的に対応できない。マンションや住宅、介護施設などに変わるのが現実である。
- 雑木林でみどりに関する活動をしており、他の団体と連携して蟬の抜け殻調査などを行っている。道路の予定地では柵の中に入れなくなってしまった。
- 玉川上水に案内板を増やすとかベンチを設置するとか周辺のお店のマップをつくるとかそういう取り組みが必要ではないか。マップを置くケースを設置するだけでもかまわない。西武鉄道に協力を得ることも考えられる。
- 中央公園の井戸は使えるのか。
 - ・枯れている。雨水が溜まって使えることもあったがよく調べてみると枯れていた。復活は厳しい。
- 家の近くに自治会が管理している公園があるが、施設が老朽化していたので新しく作り直した。ただし、小さいのでみどりを増やすことは期待できない。
- 三角公園もヤナギ、ツツジがある程度。丸い回転する遊具はなくなってしまった。
 - ・危ない遊具は市の責任が問われるため撤去する傾向にある。
- ある公園に犬の形をしたまたがれるものがあるが、色がオレンジからグレーに変わってしまった。かわいそうなのでなんとかしてほしい。砂場に柵があるが、猫よけに効果はあるのか。
 - ・ある程度はあるが、猫が飛び越えることもある。衛生的に問題があるので、砂場をつくらないようになりつつある。事故になった時に被害者の声は重視せざるをえない。年に一度は遊具点検をしているので、大きな事故は起きていない。
- 中央公園の水が止まっているが今のままでいくのか。
 - ・漏水のため止めており、つくり直すには数千万円かかる。どうするか検討中である。
- 風をよけられる東屋的なものがほしい。もうツツジはいらない。
 - ・維持管理の視点等でツツジにするケースがある。
- 最近、あちこちで小平は良い人が多いと聞く。みどりが多い効果ではないか。
- 生垣を増やすような取組も大事だと思う。

7. 東部市民センター

日 時：令和元年 12 月 22 日（日）10:00～11:30

会 場：東部市民センター 集会室（洋室）

参加者：1 人

【質疑、意見交換の記録】

- 花小金井で自治会に加入している。グリーンロードのマテバシイやケヤキについて、横は切るが上は切らないので上に伸びてしまう。
 - ・温浴施設の露天風呂があり、剪定の際に露天風呂が見えてしまうので、休業日に切っているらしい。切りすぎると枯れるのであまり切らないようにしていると聞く。
- グリーンロードの花小金井近くをよく利用するが、花がきれいなときはいいが、落ち葉が多いと苦情を良く聞く。
 - ・沿道では苦労されていると聞く。実際、花びらも多い。
- 昔のグリーンロードは砂利道だった。みどりが多くいい環境だと思う。グリーンロードがあると夏はありがたいが、邪魔になると枝を切るようにと苦情が来る。
- 公園はシルバー人材の方が掃除していると聞くが、あまり掃除してくれない人もいるようだ。
- 木は高さが問題である。
 - ・市としては東京都に管理をお願いする立場になる。ケヤキの頭を切るには高所作業車が必要になるので、そう簡単にはできないと思う。
- 住宅地に公園ができると、市が管理するようになるのか。
 - ・市は土地を買って公園をつくるのはコストがあわないので、無償借地公園という形で増やしてきた。3000 m²以上の大規模な開発では、6%の公園をつくるよう義務付けられている。
- 370～380 人程度町内会にいますが、子どもは 30 人程度。花小金井小は、マンションが増えたので子どもも増えている。新規居住者も町内会には入っていただいている。役員にはなっていないが、みな真面目である。
- 近くにグリーンロードがあり、それに隣接した公民館を防災庫などとして利用させてもらっておりありがたいと思っている。
- 付近に住んでいる方はみどりがきれいなときはほっとするらしいが、屋根に葉っぱが落ちると苦情を言う人が多い。離れたところに住んでいる人は好意的にみている。
- 公園の管理は、シルバー人材の方の監督不行き届きの苦情をよく聞く。これはシルバーに言えばいいのか。
 - ・市から直接指導はできないが、シルバー人材センターに伝えることはできる。人によって仕上がりに差があり、引き継ぎがうまくできていないこともあるようだ。シルバー人

材センターには伝えておく。

○防災は火を出さないことに注意している。火さえなければいいところ。住みやすい。

・サクラは倒れそうなものもあるが切っても仕方ないという感覚はあるか。

○ある。枝が広がらないまとまったサクラもあると聞くのでそういったものに植え替えてはどうか。

・植樹自体にはお金はかからないが、連作ができないので今どれを植えるか迷っている。

サクラに関しては意見が多いのでなかなか決めきれない。サクラの近くに住んでいる人からは切してほしいという声はよく聞く。グリーンロードに面している人と少し離れた人では意見が全然違う。

○グリーンロードが東京都の管理だということを知らない人が多い。

○東京都の土地に花を植えている人がおり、それが放置されていて苦情がある。

○自治会で落ち葉の清掃活動しようとしても隣の自治会との兼ね合いもあり難しいが、もしするなら、市にはゴミ袋をいただけるとありがたい。

Ⅲ 意見のまとめ

1. みどりの確保について

意見	会場
・3000 m ² 以上の開発につき、6%の面積をオープンスペースとして提供するという提供公園の制度が十分に機能しているのか疑問である。	学園西町地域センター
・国分寺のように、開発面積に応じて緑地帯を設ける義務を負うような制度が必要なのではないか。	学園西町地域センター
・風致地区が機能していればもう少し状況が良くなるのではないかと考えている。今は風致地区と線引きされていてもなし崩し的で、どこから風致地区なのかわからない状況になっている。	小川公民館
・観察会や調査など助成金を出してくれると嬉しい。	小川公民館
・青梅街道駅の東側の空き地は買収できるか。駅前に公園ができると良いと思う。	中央公民館
・あかしあ通りや一橋学園前の商店街でハンギングバスケットを活用しようというアイデアはとても良いのでクラウドファンディングなどで資金を集めて実現できると良いと思う。	中央公民館
・今後人口は減っていくので、みどりを減らしてまで作っている宅地は、将来の空き家候補である。	中央公民館
・鷹の台の創価学会の跡地はグラウンドになると聞いているが、たくさん木を植えてほしい。	中島地域センター
・生垣を増やすような取組も大事だと思う。	中島地域センター

2. みどりの維持管理について

意見	会場
・管理が少ない樹林地では、落ち葉が絨毯敷きのようにっており、清掃の手が足りないので効率的な清掃用具など考えていきたい。	中央公民館
・あじさい公園はホタルのための池があるが整備されていない。ホタルの餌となるカワニナを育てていくのは手のかかることなので、成果はまだであっても「ここでホタルを育てている」という旨を伝えてもよいかと思う。	中央公民館
・落ち葉の管理が大変だからといって強剪定されている状況は樹木にとって良くない。	中央公民館
・落ち葉はゴミではなく循環させていきたい。	中央公民館
・管理の行き届いていない提供公園があるが、コミュニティガーデンをやってみたい。	中央公民館
・三菱UFJ銀行の跡地が公園になると聞いているが、その際サクラの老木の行く末が気になる。	小川公民館
・落ち葉により、池の掃除に苦慮しているので、網をかけるなどの対応をしてほしい。	中央公民館
・現在の状況が森林を管理する上で適していると思われると誤解を生む。雑木林のかつての姿と、現状を計画にはしっかり記載してほしい。	中央公民館
・低木・草花などは専門家を招聘してマニュアルを作成、レクチャーを開催すれば後々自分たちでできると思う。市民が関わることができるしくみづくり、市民にやってもらう仕組みづくりを構築してもらいたい。	中央公民館
・公園にカフェなどもできるようになったというが、スタバのようなチェーン店ではなく地域の人が運営するものになってほしい。	中島地域センター
・公園内に屋内の休憩スペースがほしい。不登校の子も受け入れられるような福祉的な機能を持つ施設が良いのではないか。	中島地域センター
・限られた予算をどう使うかも大切だが、用水路や新堀用水は全て残して欲しい。コンクリート張りにするのは避けるべき。	中島地域センター
・グリーンロードの花小金井近くをよく利用するが、花がきれいなときはいいが、落ち葉が多いと苦情を良く聞く。	東部市民センター
・公園はシルバー人材の方が掃除していると聞くが、あまり掃除してくれない人もいるようだ。	東部市民センター
・自治会で落ち葉の清掃活動しようとしても隣の自治会との兼ね合いもあり難しいが、もしするなら、市にはゴミ袋をいただけるとありがたい。	東部市民センター

3. 農地保全について

意見	会場
・生産緑地が減って来ていることを目の当たりにして危機感がある。	学園西町地域センター
・樹林地も畑も私有財産なので行政の対応に限界があるが、地産地消を促進するなど、農業経営が成り立つようなサポートが必要である。	学園西町地域センター
・基金を積んで農家の人が土地を売らないで済み、将来に渡ってみどりを守れるようにできる仕組みが望まれる。	学園西町地域センター
・鷹の台町の玉川上水の近くに住んでいるが、近隣に作物の作られておらず、雑草さえ生えていない生産緑地があり、風が吹くと砂埃が玄関の間から入ってくるなど、とても困った状況になっている。持ち主が維持管理できない状態だと思われる。	小川公民館
・空いている生産農地を貸し農園や市民農園して利用できれば、活用したいという人は多いと思う。	小川公民館
・農地が宅地化によって現象しているということを考えれば、空き家を活用することによって農地の開発圧力を下げることができれば、農地の減少を食い止める一助となるのではないか	小川公民館
・農業はどうしても個人事業主で経営が不安定になることが多い。農業法人にして債権も発行してもらい運営できるようになればいいかもしれないが、そうすると相続にも労力がかかる。	小川公民館

4. 地域活動について

意見	会場
・共働きで夜遅くまで働いており、町内会への参加を促すことも難しいので、みどりを守るということはそれだけにとどまらず、社会構造や労働条件を変えていかなく必要がある。	学園西町地域センター
・NPOに属して活動しているが、生きものを支えるだけでなく、みどりの活用、観察会といった活動を通じて人の輪が繋がっているという実感がある。	小川公民館
・グリーンロードは身近な生活に密着したみどりであり、サクラが植わっていて花が咲く頃は見応えがある。	小川西町地域センター

5. みどりの地域資源について

意見	会場
・玉川上水に近く、散策できて日々ありがたいと感じる。水が流れて生物が生き生きしてきたと近くの住民は評価している。	学園西町地域センター
・小平市のみどりで良いところはグリーンロードを中心として、玉川上水、鷹の台の中央公園などである。	小川公民館
・中央公園の雑木林はアクセスも良く市民のイベントも多い上、希少種であるアオバズクもくるなど自然も豊かで、とても価値が高い。	小川公民館
・狭山・境緑道、玉川上水緑道、小平駅・花小金井駅の大花壇は小平市のみどりとして自慢できる。小平霊園のケヤキや、神明神社のケヤキ、オープンガーデンなどの取り組みも素晴らしい。	小川公民館
・オープンガーデンも緑道も素晴らしい。みどり豊かな小平は住んでいる人は評価していると思う。	中央公民館
・玉川上水に案内板を増やすとかベンチを設置するとか周辺のお店のマップをつくるとかそういう取り組みが必要ではないか。	中島地域センター
・緑道など散策中に少し休憩したいので、ベンチをもう少し設置してほしい。	中央公民館

6. みどりのまちづくりの方向性について

意見	会場
・以前は農地も都市には必要ないという風潮もあったことを考えれば、農地や景観に関する考え方も法律もだいぶ変わってきている。条例の範囲で変えられるものは変えていければ良いと思う。	小川公民館
・空き家と空き地とみどりの創造をリンクさせることも重要である。	中央公民館
・高齢者施設の近くにみどりのスペースがあると使いやすいのではないかな。	中央公民館
・ありきたりな"水とみどりの〇〇〇"ではなくて、もっと素敵でキャッチフレーズを考えて、小平市のみどりをPRできるとよいと感じる。	中央公民館
・国交省もグリーンインフラという概念を打ち出している。みどりだけで完結するのではなく、ヒートアイランド対策や医療費の削減につながるロジックを組み立てられるとよいのでは	中央公民館
・今のみどりに関して大きく方向転換することなく今のみどりを維持してほしい。	小川西町地域センター
・最近、あちこちで小平は良い人が多いと聞く。みどりが多い効果ではないか。	中島地域センター

